

公益社団法人日本青年会議所
会 頭 選 挙 管 理 委 員 会
委 員 長 市 川 将 明 殿

一般社団法人横浜青年会議所
理 事 長 坂 倉 賢

立候補推薦文

一人ひとりが、自分自身の力でこのまちを良くするという想いと、最後までやり切るといふ本気の覚悟を持った上で、実行すること、アクションを起こすことを「考動」と定義し、野並晃君は横浜青年会議所2019年度理事長としての運動をスタートさせ、数多くのムーブメントを起こしました。親子三代理事長であり、周りのメンバーには想像もつかないプレッシャーがあったはずですが、野並晃君は2013年に入会以来、毎年多くの功績や高い評価をいただき、最短期間での理事長就任に至りました。2018年には当時の池田祥護会頭のもと公益資本主義推進委員会委員長を務めさせていただき、社会の公器である企業が全てのステークホルダーの利益を追求する持続可能な社会構築にチャレンジ致しました。「考動」という行動様式を率先垂範し続けたことで、本年度は会頭石田全史君が掲げる「真実一路 軌跡を紡ぎ、奇跡を起こそう！」のスローガンのもと、様々な国家の課題解決にチャレンジする副会頭として、成長の機会をいただいております。

本年度、新型コロナウイルスという世界中の危機によって、日本の青年会議所においても甚大な影響を及ぼしております。これまで課題とされてきた事柄に加えて、ニューノーマル時代への変化に対応することが求められています。2021年の日本青年会議所の会頭には、ニューノーマル時代への羅針盤となるようなリーダーシップと時代の変化に柔軟な対応力を、日本の各地会員会議所は期待していることと想像致します。

秋茄子は嫁に食わすなという諺があります。美味しい秋の茄子は勿体ないから嫁には食べさせるなという姑の嫁いびりの言葉としての意味と、茄子は体を冷やす、或いは種が少ないので子供が出来ないといけないから、嫁には食べさせるなという嫁を大切に思う意味の双方を持ち合わせています。このように物事は多面的に捉えることが大事ですが、私が青年会議所人生の中で4年間に亘り野並晃君の直属の部下として活動を共にして感じるのには、野並晃君は一つの事柄を多面的に捉え考える力、伝える力を持っており、大きな組織のトップの役割を長年経験してきたからこそ、中間管理職の人を動かし、成長させることに大変長けているということです。未来の地域、日本のために、2021年の会頭として役割を果たしてくれると確信しております。

日本の青年会議所運動のさらなる発展のために、横浜青年会議所の総意をもって最大限の支援をすることを全国のメンバーの皆様にお約束すると共に、野並晃君を輩出するLOMの理事長として、自信をもって会頭候補者に推薦致します。

以上